

京 都 大 学

國文學論叢

第 3 号



お伽草子『緑弥生』……………柴田 芳成 (一)
 — 新出作品解説 —

和泉式部日記「故宮の御はてまでは」考……………菅原 領子 (一三)
 — 応永本文の可能性 —

近松時代浄瑠璃に描かれる「悪」……………久堀 裕朗 (二六)

キリシタン版国字本における本語の開合表記……………岸本 恵実 (一)



京都大学大学院文学研究科国語学国文学研究室

〈編集後記〉

『京都大学国文学論叢』第三号をお届けいたします。本号は中古、中世、近世文学各一本、国語学一本という内容になりました。久堀稿は先日平成十一年度京都大学国文学会における研究発表の内容を含むもの、また柴田稿は今月二十四日より京都大学附属図書館で開催されているお伽草子の展示に伴う調査の中で新たに出現した作品の紹介です。

お陰様をもちまして本誌も創刊一年を迎えることができました。これからも年二回の刊行を続けていけるよう院生一同、ますます精進いたす所存でございます。

今後とも何卒ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

(川島)



平成十一年十一月二十五日 印刷
平成十一年十一月三十日 発行

編集発行者

千六〇六一八五〇一
京都市左京区吉田本町

京都大学大学院文学研究科国語学
文学研究室「国文学論叢」編集部
電話 〇七五―七五三―二八二四

印刷者

京都市下京区室町通り仏光寺上る
亜細亜印刷株式会社

※表紙題字『易林本節用集』より

(京都大学文学部蔵書長板)

